

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成29年7月19日
タイトル	「くわい」の出前授業をしたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成29年5月30日（火）福山市立新涯小学校5年生123名が新涯小学校図書室で出前授業を受けました。新涯小学校5年生は、地域の特産物である「くわい」について、くわい農家の方から出前授業で学んだり、農家のほ場でくわい植付け体験をしたり、校庭にあるミニ田んぼで「くわい」を栽培し収穫した「くわい」を使った調理実習をする学習に取り組んでおられます。

その第1弾として福山くわい出荷組合の元組合長であり、水土里ネット福山の<sup>えだひろよしはる</sup>枝廣義春理事から農家の方の生の声をお聞きする出前授業をされました。



みんな真剣な表情で話を聞いています！



事前に勉強して、いっぱい質問しました！

### 出前授業の主な内容

- ・くわいは約1,000年前中国から伝来し、福山市では120年前に福山城のお堀に植えられたと伝えられている。
- ・新涯町では、約60年前から本格的にくわいの栽培がはじまった。
- ・米以外に転作することが勧められ徐々に増え約60年前にくわい出荷組合ができ、約50年前に本格的な共同出荷が始まる。
- ・当時は、寒さが厳しく、収穫も洗浄も手作業だったため非常に厳しい作業だった。
- ・くわいの収穫の時は、まず茎を刈り取り、それからポンプで水圧をかけて掘る。
- ・約30年前に水圧ポンプを使って収穫するようになり収穫作業が3～5倍速くなった。
- ・今はレンコンを収穫する機械のノズルをくわい用に改良して、自動で水圧をかける物がある。
- ・くわいの種類は、青くわい、白くわい、吹田くわいの3種類で、福山は青くわい。
- ・今は、正月から土作りをしているところで土に栄養を吸収させている。6月中旬から植付けをする。
- ・植付けするくわいは、前年の収穫時に2SやSのくわいを取っておいて冷蔵庫で保管しておき、植付前に冷蔵庫から出して植える。冷蔵庫から出すとすぐに芽と根が出てくる。
- ・くわいの芽は1m以上に成長し約1000本に1本の割合で白い花を咲かせる。この花から実もなって、その種でくわいを作ることもできる。
- ・くわいの栽培は、害虫の駆除と夏の暑さに応じて肥料をすること。毎年気象条件が変わるので、その年によって対応が違ってくる。
- ・収穫は11月中旬からで、毎年11月13日が初出荷となっている。
- ・くわいは、そのまま料理にして食べるだけでなく焼酎やスープ、お菓子に加工して売られるようになった。

パネルを使って、くわいの葉や花の様子、収穫の様子を説明されました。またホワイトボードに絵を描いて、くわいの根がどこから生えてくるかクイズをされました。玉ねぎのように底から生えるのか、芽の根本から生えるのか、実際は、芽の途中から生えてくるそうです。子ども達はしっかり勉強していて、ほとんどの子が正解を当てました。

枝廣工区長より、くわいを栽培するには水が一番大切ということで、水土里ネット福山を紹介していただき、新涯小学校の近くの農地まで計画的に農業用水が取水配水されていることを説明しました。子ども達は、福山城よりもっと遠くから農業用水が流れてきていると言うと「へえ」と感心を持ってくれたようです。

説明の後、子ども達から質問がありました。

Q くわいを作って一番大変なことはなんですか？

A 水の中に入って作業をするので冬の寒さです。最近は温かく、一生懸命作業して汗をかいて風邪をひきます。

Q くわいを作ってうれしかったことはなんですか？

A くわいは、収益が大きいことが大変励みになります。

Q 今の時期に気を付けることはなんですか？

A 土作りが大切。草が生えないように耕運機をかけます。

Q 小さな鉢でもくわいを作ることはできますか？

A できますが、根がはりませんので沢山収穫できません。



最後は、子ども達から、大きな声で感謝の気持ちが伝えられ出前授業を終わりました。

今後は、6月下旬に植付け見学され、学校の校庭のミニたんぼへくわいを植付けする予定です。パソコンなどで事前に勉強している子ども達ですが、実体験に勝るものはないはずです。これから植付けや栽培、収穫を体験することで益々成長する子ども達を見守っていきたいと思います。

水土里ネット福山では、本年度も福山市の特産物である「くわい」の魅力を子ども達の農業体験を通じて全国に発信してまいります。